

泰緬鉄道の悲劇を演劇化

イギリス人捕虜

旧日本陸軍通訳

テにローマックスさん

ワキに永瀬隆さん

能楽仕立てミュージカル

マカレストター演劇大教授の演出で

「日本の能楽にも造詣の深い、アメリカ・ミネソタ州セントポールにあるマカレストター演劇芸術舞踊大学の演劇主任教授シアーズ・ハ・エルドリッジさんが五月に来倉、大島、旧日本陸軍通訳、永瀬隆さんのインタビューを行った。これは、同教授が泰緬鉄道にかかわる演劇の制作のために、脚本の細部にわたって真実を追求するため。」

脚色のため来倉

永瀬さんにインタビュー



同教授は、今春から、

永瀬さんの著書「虎と十字架（英語版）」や、元

英国陸軍主室通信隊少尉

エリック・ローマックス

さんの著書「ザ・レール

ウェトマン」（95年エス

クワイヤー誌ノンフィク

ション大賞受賞作）を説

いて演劇化を計画。すで

にシナリオは、第一、二

幕はできており、今回の

永瀬さんのインタビュー

と、引き続きタイ国を

訪ね、舞台となった泰緬

鉄道の現地調査を行い、

年内に脚本を完成させ、

来年四月下旬から五月上

旬の上演に向けて準備が

すすめられている。

その一環で、十月二十

七日に来日、東京、京都

で日本文化を研究したあ

と、五日に夫人を伴って

倉敷入り。同日は西阿知

町の藤原邸で茶の湯の接

待を受けたあと、大島で

教時間にあたって永瀬さ

んインタビュー。六日

美観地区など、秋の倉敷を探訪。七日に離日してタイを訪問、クワイ河鉄橋や永瀬さんが建立したクワイ河平和寺院などを訪ねる。

企画されている演劇は

泰緬鉄道の所在地、カン

チャナブリー県から引用

「カンブリ」とされる見

通して、能楽に傾倒する

エルドリッジ教授は、室

町初期の能作者、世阿弥

（一二三六—一四四三）

の代表作の一つ「教盛

」を参考に組み立てた、能

仕立てのミュージカルを

目指しており、シテにロー

マックスさん、ワキに永

瀬さん、ワキツレに藤原

佳子さんという。同教授

が脚色・演出、出演は同

大学生で、ローマックス

さんと永瀬さんの二人の

人生の旅路を劇化した作

品。

第一幕は、カンチャナ

ブリーの連合軍墓地を舞

台、第二幕は、五十年後

の戦場に架ける橋を舞台

第一幕では、ローマック

復讐の亡霊となって

の登場からスタートする。

今回の訪日で、再問をど

は、著名な中国人作曲家ジュン・インさんに依頼。これまで出来上がったシナリオを読んだ永瀬さんは「これまで、泰緬鉄道をテーマの場合、復讐劇が強調され、恨み節に終始していたが、この作品は、双方の戦後の後遺症である捕虜となつての苦悩、通訳の苦悩などなせ苦しんでいるのかの説明がよくできている。テーマは重いが、非常に真面目に取り組んでいて魂にふれるように描かれ外国人にも日本人にも分かり易い。現代人におけるメッセージとなるのでは」と話している。